



- Link “新風”

Vol.48
(通算 第141号)

ゴールデンウィークはどこか行かれましたか？

リフレッシュした心と体で、仕事に励んでいきましょう！！



『春花』

『今月の表紙』

庭に咲いていたパステルカラーの可愛らしい花。
小さなバスケットに入れて部屋に飾るだけで、気分も明るくなりますね。
ちょっとしたことで取り入れられる生活の潤い、大事にしていきましょう。



撮影者：営業部 荻田部長

大変過しやすい季節となりました。縮こまった心身がふぁーっと緩んでくる気がします。でも安全には十分気をつけてください。



この4月、新卒者4名と中途採用者2名が私どもの新しい同志として入社していただきました。会社との出会い、人との新しい出会いが生まれたわけで、このご縁が永く続くことを願っています。中途採用者は既に社会人として十分実績を重ねてきたわけで、一日も早く経営に貢献していただきたいものです。新卒者においては全く未知の世界に飛び込んで行くわけで、毎日毎日知らないことばかりとの遭遇であり、発見です。そういう意味では毎日栄養がついていき社会人としての基本ができていくものと思います。先輩諸氏の新卒者に対する評価は、今のところ合格のようです。明るく元気な挨拶ができて、早くに就社している、マナーが良いなどがその要因と聞いています。会社の目的である顧客創造にはまだまだ時間がかかります。今は先輩諸氏の信用と信頼を勝ち取ることこそが取り組むべきことで、それがやがては自己の成長の大いなる肥やしになると確信しています。基本動作が重要です。新卒者にとってこの時期は大分疲れがたまっているの、ゴールデンウィークはいい休養となるでしょう。

このところ、痛ましい交通事故のニュースが頻発し、枚挙にいとまがないくらいです。安全は自ら作り出すもので、決して他人が与えてくれるものではないことを肝に銘じて我々は過しているのですが、どうもこの辺の基本的な社会ルールが破壊されているかのように思えてなりません。すなわち他人の心身共の痛みを理解できない輩が多すぎるということ。病による不測の事態というものもありますが、これとて運転を避ければいいこと。居眠り運転などはもってのほかです。他人を巻き込んだ悲惨な事故を想定するならば、身の毛がよだつ光景が思い浮かぶはずで、それを避けるにはどうしたらいいかと考えることは基本中の基本で、ああすれば良かったという事態は避けたいものであります。

行かなければと思いつつも昨年の暮れ、今年の正月とこのところすっかり故郷の人たちにご無沙汰をしております。日頃の忙しさにかまけてですが申し訳なく思っています。先日、実家の近所に住む竹馬の友に近所の人たちや友人の安否などを尋ねるべく電話したところ、その彼は1月に肺がんを患い手術をして、現在も入院中との家族の知らせでした。時の移ろいの中に思ってもみない事柄はおきているものだと考えさせられました。

実家(旧名小笠町、現 菊川市)は他人に賃貸していたので、もう10年間ほど生家に入っていないことにります。その賃貸も最近打ち切ったので久しぶりに生家に入ることができそうで楽しみです。人が住み暮らしていたこと、また家屋敷の維持を賃貸の条件になっていたので以前のままの状態の家が保たれていることと思います。高校3年生まで生まれ育った思い出が一杯詰まった家屋敷で。最近ふと思い出した思い出の一つに子供の頃使った遊び道具・・・カッチン(ビー玉のこと)、ペタン(メンコ)などを松の切り株の近くに埋めた記憶があります。50年近く埋もれた懐かしさを掘り起こすことをとても楽しみにしているところで、多少若返るかもしれないかな?(笑)

3.11の復興、消費税問題、北朝鮮の「ミサイル」発射問題、閣僚問題、原発問題、等々政府の対応については目を覆いたくなるような報道ばかりです。いずれの場合でも見えてくるのは、党利党略、自己保身であり国民不在の政治。身命を投げ打って国家、国民の為に働くリーダーの出現を待ちわびている。どうしても墮落した政治家が多いのか理解に苦しみます。こういう風潮が今の日本の象徴のように思えてなりません。我々国民は自己責任の下に必死になって働いています。我々の手が届かないところ、我々では責任が負えないところ、そこでは本当に私利私欲を棄て命がけで国のために働く人たちがいないと困ります。

NPO法人(内閣府認証)エコキャップ推進協会推進している“ペットボトルのキャップで世界の子供にワクチンを届けよう”に当社も賛同し、白鳥製造部長が中心で活動しています。スタートしてから5ヶ年が過ぎほぼ定着した感があります。私は、社外でペットボトルを飲み終えたときはなるべくキャップをカバンやポケットの中に入れ会社に持って帰ることにしています。一つの楽しみになっている感じがします。協会のHPによると2007年7月～2012年4月で回収されたキャップの実績数は、5,699,424,272個とのことです。我々の実績数は、2009年10月～2012年4月末日の間で27,200個との報告を白鳥部長から聞いています。因みにこの数は、34人分のワクチンに相当するとのことです。これらの数値を見るにつけ、日々コツコツ積み重ねていけば大きな善意になることを改めて認識する次第です。

混沌とした時代ではありますが、基本に忠実に、人としてのやるべきことをしっかり見つめて歩いていけば、個人も会社もたやすく潰れるものではないと考えています。今期もあと4ヶ月となりました。将来のことはわかりませんが、将来に向けて今やらなければならないことはわかっていますのでそれに集中しましょう!

社長 赤堀肇紀